

# 1 / 1 4 記者会見

## 1. 内容（資料説明）

### ①上北谷地区ほかにおける断水について

1月8日（木）夕方の15時50分頃、ポンプ制御盤の故障によって配水池への送水ができなくなり、配水池の水がなくなった20時頃から上北谷地区ほかで断水が発生したものの。

まず、対象地域の方々には、大変ご迷惑をかけたところであり、この場を借りて心からお詫び申し上げます。このたびの断水の原因、復旧、様々な市民対応や今後の対応についてまとめたので、ご説明したい。

発生原因は、ポンプ制御盤内にある電流を制御する部品が損傷し、水を高い位置へ汲み上げるポンプが起動不能になったことによるもの。現在わかっていることはこれだけであり、具体的な損傷の原因などはこれから調査、確認が必要という状況。

断水地域は、記載した10町内、約680世帯の約1590人。

復旧の経緯については、1月10日（土）の時点で配水を開始した。なお、損傷した部品は正規のものの調達に時間がかかることから、代替品を調達して仮復旧という状況。同日21時40分に水質等の異常はないことを確認して、配水を開始した。11日（日）の朝から生活用水として使用可能とさせていただき、12日（月）の3連休最終日、朝から飲用として使用可能となった。生活用水としては3日間ほど使えなくなったことから、本当にご迷惑をおかけした。

配布資料の下部から、これまでの対応をまとめた。

まず、(1)発生当日から、断水の始まる前の時点で関係課を招集し、対策会議を実施して、全庁体制で情報共有をするとともに、早期復旧や対象地域への対応を行った。本日14日（水）までに、計5回の会議を実施した。

次ページに移り、(2)給水所の設置により給水支援を行った。給水タンクの設置には少々時間がかかることが分かったため、まずは1月8日の夜、対象地域への500mlペットボトルや水が入った給水袋、簡易トイレの配布に、市職員が連携して従事した。また、当初からすでに日本水道協会新潟県支部へ給水応援を要請しており、1月9日の昼頃から、全7か所の給水所に給水タンク設置の対応をしてもらうことになった。新潟市、長岡市、小千谷市には、この場で改めて感謝申し上げます。(3)給水所に自力で行けない恐れがある避難行動要支援者のうち要介護3以上の方については、市職員から電話をして、希望があった方には職員から配布をさせていただいた。(4)小学校、保育園の状況は記載のとおり。(5)普段週末は学校の給水を止めているが、今回の状況を踏まえ、受水槽に水を入れてトイレが使える状況でもあったことから、10日・11日の2日間についてトイレのための開放をさせていただいた。(6)「お風呂をどうしようか困る」というような声があった。今回大変ご迷惑をおかけしたことも踏まえ、ほっとびあを開放した。9日から11日の3日間、対象地域の住民に向けて、本人と分かるものを提示して無料という形にさせていただいた。車で移動

できない方のためにも、コミュニティワゴンの運行を行った。(6)夜間・週末も問い合わせをいただく可能性があったこと、特に今回は三連休であったことから、改めて電話の相談窓口を設置した。(8)その他、飲料水の運搬などについて。初期の段階では、まず市の職員が避難行動要支援者への対応に従事したが、途中からは区長や民生委員の方からご協力いただいた。また、管工事業協同組合や関係団体から、今回の復旧や断水地域のフォローにあたっていただいたところ。心から、感謝申し上げたい。

今後の対応について、(1)まず今後の原因究明を早く、しっかりとやらなくてはならない。今は制御盤の仮復旧という状況のため、原因を究明しながら復旧の方法をしっかりと検討し、本復旧を行っていかなければならない。なおかつ、仮復旧にあたって調達した部品のストックも確保し、不測のトラブルに対応していきたいと思っている。今後同様なことが起こらないように、原因究明、そして対策が大事になってくる。スピード感を持って対応していきたい。それから、(2)対象地域のお住まいの方にはほっとぴあの開放などフォローをしたが、今回は水道料金の1月使用分を減免させていただきたいと考えている。これは、水の濁りがなくなるまで水を流してもらうなど、対象地域の方にご迷惑をおかけしたことも踏まえて、措置を取りたいと考えているもの。

## ②1月補正予算 物価高騰対策として「みつけ暮らし応援券」を配布

国の交付金を活用するもの。3月議会の時点では遅く、できるだけ早く市民の皆様に経済的な負担軽減を届けたい、早期に効果を発揮できるようにしたいと思っていたところ。名称を「みつけ暮らし応援券」として、市民を対象に配布させていただく。臨時会を1月21日に招集して、補正予算案を提出させていただく予定。

全市民に対して配布するもので、やはり地元の飲食店、あるいは市内店舗への経済効果のため、現金ではなく商品券という形をとっている。加えて、まだ市民ではないが、お腹の中にいて将来の市民となり得る赤ちゃんも対象とする制度とさせていただいた。金額は、赤ちゃんの分も含めて1人当たり1万円。

配布方法は、3月中旬から順次、世帯の人数分の商品券をご自宅へ配布する予定。全体が完了するには、1ヶ月から1ヶ月半程度かかる見込み。利用期間は今年の12月31日年末までと考えている。取扱店登録された市内店舗で利用可能になるが、昨年まで「みつけ子育て応援券」に取り組んでいたため、各取扱店に希望確認等を行い、新たな取扱店を整理してお知らせできるようにしていきたい。

## ③見附市の未来を示す2つの計画案について意見募集等を実施

見附市の将来10年間の方向性を示す第6次総合計画、昨年11月に発表した学校適正配置計画、この二つの計画案について、パブリックコメントを実施するもの。期間はそれぞれ1月23日から2月23日の予定。学校適正配置計画については、パブリックコメントに加えて、説明会も市内8ヶ所で開催予定。1月28日の上北谷小学校から2月15日の今町小学校まで、お住まいでない地域の会場に来ていただいてもいい。説明会には私と教育長、教育委員会事務局が参加し、皆様にご理

解いただけるよう説明していきたい。

#### ④「見附市障害者雇用推進セミナー」を開催

昨年4月に差別のない共生条例を策定した。これは、地域共生社会の実現を目的としたものであり、誰もが障がいに関係なく、誰もが職業を通じて社会参加ができる環境を整えるということも大事な視点だと思っている。市としても障がい者の雇用にしっかり取り組んでいかなければならない一方で、資料に記載のとおり、障がいのある方の雇用をどう進めればいいのか、雇用に向けてどう支援を進めればいいのかといった声や、障がいのある方からも就職に向けて一歩踏み出せないという声が上がっている。こういった課題や悩みを解決するきっかけとなるよう、セミナーを開催したい。

日時は1月30日（金）で、会場は保険福祉センター。4名の方から講演していただく予定。市としてはこれまでも、障がい者の雇用を視野に取り組んできているところ。令和5年には進出企業交流会でセミナーを行い、昨年も利用促進セミナーを行ったほか、障がい者雇用通信といった発信の取り組みを強めている。配布資料下部の「障害者雇用率の推移」において、法定雇用率を三条管内ではクリアできていないが、見附市内の事業者に限れば、過去は低かったものの近年雇用率が伸びていると聞いている。市役所では現在ぎりぎりクリアしている状況。障がい者の働きやすい職場環境づくりを、企業の皆様に引き続きお願いしながら、障がい者を含めた共生社会を築いていきたい。別紙でセミナーの案内も配布したので、ご覧いただきたい。

#### ⑤キリンビール株式会社の寄附活動に見附市が選定

キリンビール社の寄附活動に応募したところ、見附市が寄附先に選ばれた。「見附市市民の森」の桜の保全活動に活用するもの。

寄附活動は「晴れ風アクション」というもの。資料にも記載のとおり、専用サイトもあり、さまざまなPRをしてもらえるものと思っている。

保全活動に関しては、市民の森では平成14年から市民オーナー制により、6年かけて約400本の桜が植えられた。この桜の保全や剪定といったところに、この寄附金を活用できればと考えている。

寄附金額は、販売本数で変わるようだが、年間50万円程度ご寄附いただけるものと聞いている。スケジュールにおいてやはり大きい事項は、2月からのポスターなどを活用した広報活動の展開であり、市としても協力していく。市民の森だけでなく、見附の他のことも一緒にPRできるかどうか、というところもあるが、しっかりと発信に繋げていきたい。

## 2. 質疑応答

質：新潟日報

- ・今回の断水について現在、部品は代替品で対応しているとのことだが、その代替品はいつ頃まで使い続けられるか。また、本復旧の工事はいつ頃までに実施するか、お考えを聞きたい。

答：市長

- ・現在の代替品がいつまで使用できるか、分からない状況。このため、できるだけ早めに本復旧をしなければならない。スケジュール感は現在検討中であり、原因究明も必要であるため、闇雲に本復旧に入れない部分もある。できるだけ早く、スピード感を持って議論を進めていく。

質：新潟日報

- ・12日に飲用も含めて復旧したとのことだが、その後、改めて市民の方からの問合せがあったり、現在も何かしらの影響を受けていたりなど、特にない状況か。

答：市長

- ・市民や事業者を含めて、さまざまところから問合せを受けたり、影響を受けたりしているところもあると思うが、現段階で具体的な要望など受けているものはない。

質：新潟日報

- ・ほっとぴあを開放したとのことだが、何名程度の利用があったか教えてほしい。

答：市長

- ・3日間の合計で、断水の対象者のうち919名からご利用いただいた。9日が265名、10日が386名、11日が268名という内訳。

質：見附新聞

- ・昭和53年に整備したものであるということで、だいぶ時間が経っている。そもそも、老朽化という問題があるのかなのか、聞かせてほしい。

答：市長

- ・配電盤全体としてはおっしゃるような時期だが、今回損傷した部分については、平成23年度に交換していた。故障した部品はリアクトルというもので、耐用年数が15年であり、その範囲内での故障であった。必要な月1回の点検等は実施していたが、そんな中でこういったことが起きたため、しっかり原因を究明して対応していかなければならないと思っている。

質：見附新聞

- ・対象地域の方からは、地域にコンビニなど何もないため、トイレで用を足すのに市街地まで出たこともあったと聞いた。天候の関係もあったかもしれないが、例えば人が一番集まりやすい上北谷公民館あたりにトイレトレーラーを設置することはできなかったのか、といった声もある。お考えを聞かせてほしい。

答：市長

- ・トイレトレーラーの設置も考えたが、週末には小学校でもトイレ利用ができるようになったことも踏まえ、今回は必要ないと判断した。

質：NCT

- ・観音坂増圧ポンプ室から観音坂配水池への送水ができなくなったとのことだが、ポンプ室はどここのものを配水池に送ると理解すれば良いか。

答：市長

- ・配水は市内の浄水場から送っているが、今回の対象地域だけ、ポンプの動力で配水池へ一旦汲み上げないと配水できない。

質：新潟日報

- ・みつけ暮らし応援券の対象は赤ちゃんも含むとのことだが、全体で何人くらいの想定か。

答：市長

- ・2月1日現在で整理するが、1月1日現在で全見附市民は37,459人の15,317世帯。令和7年の出生数は168人なので、そのあたりも見込んで、最終的にどのくらいになるかといったところ。

質：新潟日報

- ・配布方法において、3月中旬から発送を始めるとのことで、詳しく教えてほしい。

答：市長

- ・発送前の2月下旬にお知らせだけ配布し、万が一で応援券の受け取りを希望しない場合には、確認の届け出をしてもらう必要がある。3月中旬から応援券を順次発送させていただき、1ヶ月から1ヶ月半程度で配り終わる見通し。

質：新潟日報

- ・取扱店は基本的に、みつけ子育て応援券を取り扱った店舗に対して、みつけ暮らし応援券についても取り扱いを希望するか改めて確認して、最終的に決まっていくという流れで良いか。

答：市長

- ・これから調整、確認して決まっていく。もちろん、新しい取扱店の希望もしっかり取っていきたい。ちなみに、みつけ子育て応援券は222店舗から協力いただいた。

質：見附新聞

- ・臨時会の予算書の中身を見て行くと、「業務委託料」という表現になっている。業務全体を外部委託するという理解で良いか。委託する場合、どこへ委託するか。

答：市長

- ・今回は職員の負担を軽減するためにも、市直営ではなく、外部委託をしたいと思っている。委託先については、これからの検討。

質：見附新聞

- ・委託先は市内という理解でよいか、市外にもなり得るか。

答：市長

- ・これからの検討になると思うが、可能な限り市内への裨益や経済効果を考えて、配慮していかなければならないと思っている。

質：新潟日報

- ・パティオにいがたについて、指定管理者が変わった後いつオープンになるか、もし決まっていたら教えてほしい。

答：市長

- ・来年度のオープンに向けて、現在まさに詳細の調整をしているところ。日にちなどはまだ決まっておらず、具体的なことが分かったら改めてお知らせしたい。